



NEWSLETTER

SEP. / 2018

VOL 15



## Learn English to Make Friends!

Many students are very worried about getting high scores on TOEIC or passing EIKEN. Of course, it is important to do your best when you take an exam, but I think there is a more important reason to study English — to make friends. There are 1.5 billion people in the world who speak English. That is 1.5 billion people that could be your friend — if you learn English. Really, the goal of learning English is to communicate with people so you can make friends with them. Imagine you are on a trip to New York. On the plane, there is a person sitting next to you. Do they want to hear about your TOEIC score? Do they care about your EIKEN level? Of course not. They want to have an interesting conversation with you. They want to hear a funny story about your cute dog. They want to know about your cool pictures on Instagram. They want you to tell them about your wonderful boyfriend or girlfriend. And, they don't care if you make a grammar mistake. You might make ten mistakes, but they won't care at all. No one is going to say, "Please stop talking to me, your grammar is strange." Remember, it is better to have an interesting story with a few mistakes than it is to have a boring story with perfect grammar.

Eric DesMarais

## 翻訳語としての「美術」

デザイン学部 准教授 河合 大介

「美術」という語は、いまや誰でもその意味を理解して使用しているが、この言葉が用いられるようになったのは明治期になってからのことである。一般的には、思想家・西周が『美妙学説』において、英語の fine art の訳語として用いたのが最初とされる。しかし、美術史家・北澤憲昭の指摘するところによれば、美術という語は、1872年1月にウィーン万国博覧会への参加のために、同展の出品区分を訳出した際に用いられたのが最初だという（『美妙学説』の成立は一般的に1872年とされているが、森縣が「西周『美妙学説』成立年時の考証」（1969年）において1879年とする説を立証し、北澤もこれを支持している）。出品区分では、ドイツ語の Kunstgewerbe（工芸）や Bildende Kunst（造形芸術）に美術という語が当てられ、「西洋ニテ音楽、画学、像ヲ作ル術、詩学等ヲ美術ト云フ」という注釈が付けられている。注釈からは、美術という語が工芸や造形芸術に限らず、現代における芸術の意味を与えられていることがわかる。また、美術という語が別のドイツ語、すなわち、Schöne Kunst に由来することも推察される。

現代の私たちが日常的に使っている日本語の中には、明治以降に西洋文化を導入するにあたって造語された言葉が多くある。そういった語の由来となった外国語を理解し、さらにその語が日本において意味を変えながら定着していく過程を知ることは、その日本語を深く理解し、正しく使用する助けとなるだろう。



# アデレード大学語学文化研修に参加して

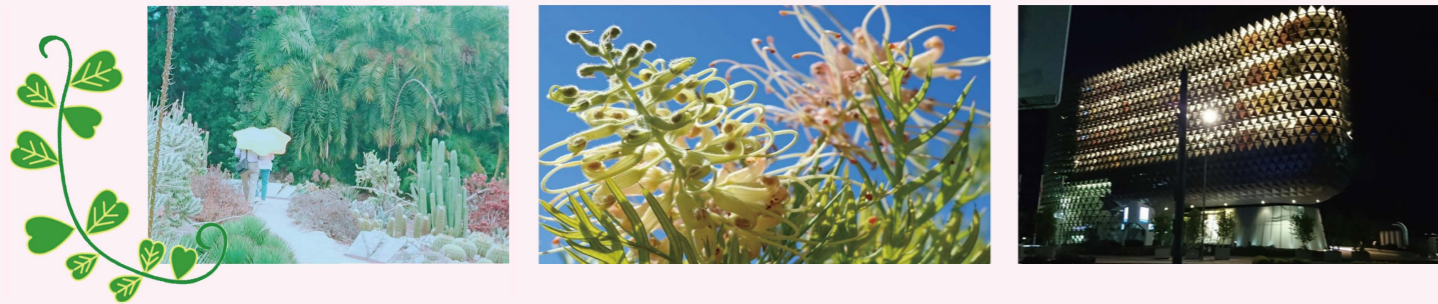
## 様々な価値観や文化に触れるチャンス

デザイン工学科 田中美海

どうして英語(外国語)を勉強するのか。それは言語の違いから生じる自分自身の孤立化を防ぐためではないだろうか。外国語を話す人とは趣味や嗜好、考え方が似ていても言葉の壁のせいで関係を築くのが難しいと感じてしまうことがある。それがどれだけでもつたいないことなのかをこの研修で気付かされた。

語学研修センターですれ違った中国人留学生は早口で中国語を話し、話しかけにくいと思った。しかし、実際に英語で話す場を持つと彼らはとても親切で気さくだった。英語力が低い私に合わせてゆっくりと話してくれたり、話題を日本のアニメや文化のことにしてくれたりした。

英語が話せると、世界中の人々と会話ができ、多様な価値観や文化に触れるチャンスが得られる。それはデザイン、建築を学ぶ私にとって、とても重要なことである。大学に入学してからたくさんの人と出会い、様々な考え方に触れてきたつもりであったがやはり世界は広いと思った。建築物を見ただけでも明らかに今まで出会った考え方以外のものが詰め込まれていると感じた。利便性や金銭的な面からだけでなく多方面からの視点を持った人の作品なのだ。個人(日本人)だけでは行き着けない思想があり、そこにたどり着くには他人(外国人)との交流が必要不可欠だ。そのためのツールとして、英語の必要性を意識することができた。

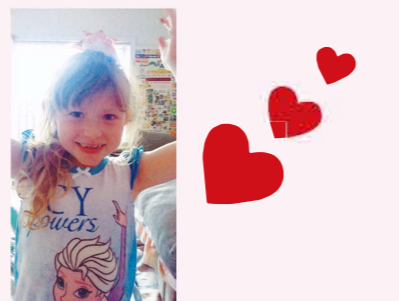


## オーストラリアで学んだこと

保健福祉学科 福田千恵

私が一番心配していたのは、ホストファミリーとどのぐらい意思疎通ができるのかということである。実際、ホストファミリーと会話してみると、自分が伝えたいことを英語でうまく表現できなかったり、ホストファミリーが話した内容を聞き取れなかったりすることがあった。しかし、ホストファミリーは私が何を伝えようとしているのかを考えてくれたり、話すスピードをゆっくりとしてくれたり、難しい英単語を言い換えたりしてくれた。ホストファミリーの、「間違えることを恐れないでもっともっと話して。間違えていたら教えてあげる。話さなかったら私は何もあなたを助けられない。」という言葉が印象に残っている。その言葉のおかげで、私は以前よりもコミュニケーションを楽しむことができ、自ら積極的にコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができた。

私は教育に関することとして、小学校で授業前に生徒を預かるシステムについて学んだ。ホストファミリーにいくつかの質問をして、このシステムは学校の生徒であれば利用でき、毎日利用する生徒もいれば必要な時のみ利用する生徒もいるということ、お金はかかることや放課後にも同様のサービスがあることを教えてもらった。お金がかかるのはデメリットであるが、メリットも多くあると感じた。例えば、授業前に子どもを預けることができれば共働きであっても早い時間から働くことが可能になり、親が選択できる職業が増えたり、早い時間から働くことにより夕方からは子どもと過ごすなどの生活スタイルも実現できたりするというメリットがあると思う。



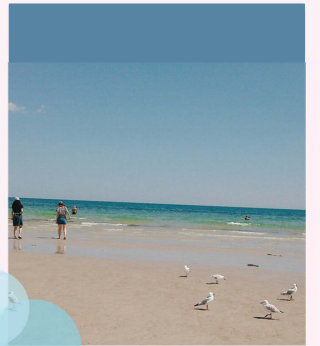
## 英語で話す楽しさ

保健福祉学科 平松萌

私は英語があまり好きではありませんでしたが、何かのきっかけになればと思い、この研修に参加しました。アデレードの人たちはとても優しく、英語で話すことがとても楽しく感じられました。

ホストファミリーは初めて会ったときから私を受け入れてくれ、緊張をほぐしてくれました。家に帰ると今日はどうだった?と毎日笑顔で聞いてくれて、私のつたない英語での報告を一生懸命理解しようとしてくれました。私が上手く英語を理解できなかったときにはゆっくり話したり、簡単な英語に言い換えたり、日本語の出来るホストブラザーが訳してくれたりしました。私も用事がないときはなるべくリビングにるようにし、慣れると童心に帰って「今日はね…」と自分から話しかけることが出来るようになりました。ホストブラザーとは将来の話をしたり、日本の友人にも話せなかったことをホストファミリーには打ち明けたりなど本当の家族のように信頼できました。

また、街の人たちもとても親切でした。授業で街を歩く人に質問をした時には、知らない人である私たちの話を目線を合わせてしっかり聞いて快く質問に答えてくれました。おばさんが今留学しているの?と話しかけてくれたこともありました。期間中に3回ほどしか会わなかったホストファミリーの友人たちは、最後の日に「また絶対帰ってくるのよ!」と声をかけてくれました。このように優しいアデレードの人たちのおかげで、文法や単語よりも伝えたいという気持ちが大切だということに気づくことができました。



## 香港スタディツアーに参加して

デザイン工学科 橋本拓磨

私は昨年香港スタディツアーに参加しました。7日間滞在して最も驚いたことは、日本では見たことのないくらい大きな広告看板が香港にはたくさんあったということです。地上5メートルほどの高いところに、歩道や車道にはみだして設置されていて、歩けばあちこちで見ることができました。とにかく色々な人に見てもらいたい、目立たせたいなどの意図が感じられました。株式会社ベクトル(広告会社)を訪問し、日本の広告と香港の広告の違いについて教わりました。日本の広告は、絵のデザインを意識して作られているのに対して、香港の広告は、絵のデザインはあまり意識せずに文字や値段などに重きをおいて作られているそうです。そのため、日本人が興味を持つような広告を作ったとしても、必ずしも香港の人たちが興味を持つとは限らないとのことでした。海を渡るだけで、こんなにも文化が違うのだと強く感じました。



この春、人生の節目をむかえた方も多いことでしょう。卒業、入学、入社、退職、転職等々。そうした際に、身の回りのものを一新することがよくあります。その1つに携帯電話が挙げられると思います。かつては競争していた時期もありましたが、いまでは、“スマホ”が“ケータイ”を凌駕しています。アップル社のiPhone人気に加え、圧倒的な人気を誇るスマホアプリLINEの登場により、スマホ市場は好調を維持している印象です。

ところで、今回取り上げているスマホは英語の“Smart Phone”をそのままカタカナ表記した“スマートフォン”を崩した表現と言えます。スマホは、(簡易的)情報処理能力を持ち、且つ通話機能を備えた小型情報通信機器であり、高機能携帯電話でもあります。ちょっとしたデータ処理等であれば、スマホでさっと対応できるのが魅力ですね。しかも、アプリ(Application)と呼ばれるさまざまなソフトウェアをインストールすることで、個人のニーズにあった機能を拡張できるのが特長的です。

一方、“ケータイ”は「携帯」のカタカナ表記を崩したものであり、通話とショートメールやキャリアメール(ドコモ等、通信事業者が提供する電子メールサービス)の送受信が主と言えます。それでも、スマホの急速な普及にともない、スマホに準ずる機能を組み込んださまざまな機種も登場しました。そうした多機能型“ケータイ”のことを“Feature Phone”と呼び、カタカナ表記で“フィーチャーフォン(ホン)”とされることがあります。実際、無線LAN機能を備え、タッチパネルに対応したスマホ相当の機種もあります。



筆者所有の“ガラケー”。  
まだまだ現役です。



黒電話。  
もう見かけることはほとんどなくなりました。

Featureには英語で「特徴・特色」といった意味があり、スマホに準ずる情報処理機能はあくまでも(通話やメールを主とする)“ケータイ”の1つの特徴・特色であるという意味が含まれていると考えられます。

なお、メディアなどでは、しばしば“ケータイ”をガラパゴス諸島(の生物)にたとえ、“ガラパゴスケータイ”(俗称ガラケー)と揶揄することがあります。これは“ケータイ”の多機能性がきわめて日本的であり、例えば、iモード(ドコモの独自ネットワーク)などが世界基準からはずれ、独自性が強いことを示唆するからでしょう。それでも、そのまま英語をあてて“Galapagos Cell (Mobile) Phone”としたところでは、意味が分かり難いと思います。“Feature”するような機能を有しないシンプルな“ケータイ”(例えば、ドコモのらくらくホン)であれば、「普通の;標準の」を意味する“Regular Cell (Mobile) Phone”でよいでしょう。

Conventional Cell (Mobile) Phone”という表現もあります。折りたたみ式タイプであれば、“Flip Cell (Mobile) Phone”と呼びます。その他、CellやMobileを抜いた“Regular Phone”や“Conventional Phone”には固定電話を指すことがあります。知らない世代が増えてきたかと思いますが、Googleなどでそれらの表現を画像検索すると、懐かしの“黒電話”もヒットすることでしょう。ぜひ、お試しあれ^^

## ◎ 語学教育推進室からのお知らせ

### 多読本の新しい本が入りました ○ ○

皆さん多読を楽しんでいますか?

新しいシリーズもおすすめばかりです。3Qからも多読の習慣を続けていきましょう!



### スピーカース・コーナー ○ ○

参加無料

今年も11月の学祭で「スピーカース・コーナー」を行います。たくさんの写真と説得力のあるプレゼンを是非ご覧ください!

日時:11月3日(土)9:30~  
場所:共通棟(東)8903

### 多読本の返却期日を守りましょう! ○ ○

返却日を過ぎている本はありませんか?

3ヶ月以上借りっぱなしの人は掲示しています。

### TOEIC L&R IPテスト ○ ○

2年生は10月20日に全員受験します。

申込みは期日までに提出しましょう!

それとは別に2月中旬に学内で実施予定です。

希望者は語学教育推進室へ申込みに来てください。

## 編集後記

今年度より3名の先生方が語学教育推進室の室員として加わりました。より強力な体制で語学を学ぶ皆さんをバックアップしてまいります。今号はその3名の先生方にトピックをお任せして執筆いただきました。また、アデレイド、香港の研修レポートや写真データを提供してくれた皆さんありがとうございました。今号を読んでもくださった皆様からの感想などをお待ちしております!

Well+ (ウェル) : 語学教育推進室 ニュースレター第15号

発行日:2018年9月25日

発行者:語学教育推進室

編集 田上明莉 原名優香 片山花音

校正 井上真実 坪井伸暁

(以上学生スタッフ)

発行所:岡山県立大学 語学教育推進室

〒719-1197 岡山県総社市窪木111

TEL:0866-94-2005

E-Mail:gogaku@ad.oka-pu.ac.jp